

「まなづる海の月報」は、真鶴の海の姿を季節を通してお伝えし、豊かな海の自然やそのめぐみと変化を知っていただくことを目的として、町立遠藤貝類博物館が2018年毎月8月より発行していきます。発行にあたっては、真鶴町漁業協同組合、岩漁業協同組合(岩ダイビングセンター)、横浜国立大学大学院 環境情報研究院附属臨海環境センター、特定非営利活動法人ディスカバーブルーをはじめとして、真鶴の海で活動している多くの皆さまにご協力いただきます。また、この事業は船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の助成を得て実施しております。町内の公共施設等で掲示させていただくとともに、町立遠藤貝類博物館ホームページからPDFファイルをダウンロードいただけますので、是非ご覧ください。プリントアウトしてお近くで掲示していただくのも大歓迎です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。9月号からは毎月25日頃の発行を予定しております。どうぞお楽しみに。



クロピンノ

レプトケファルス
(ウナギ目の幼魚)



トピック まなづるの海

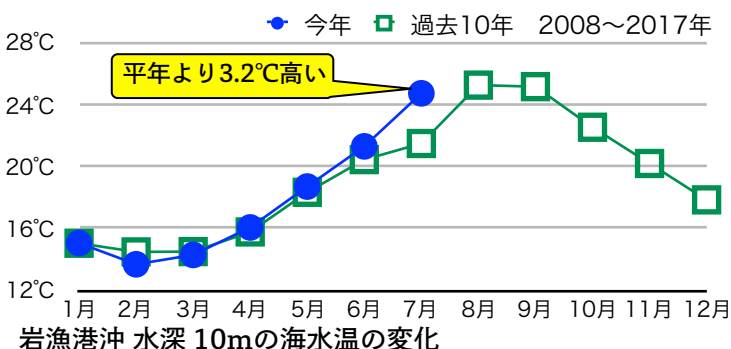
台風後の磯でめずらしい動物を観察

7月末の台風12号では、三ツ石海岸も高波で大きな岩が動いたり、海岸の植物たちが流されたり、枯れてしまったりと影響が出ました。磯の生物たちも流されていなくなったものもいましたが、一方で、普段見かけないような生物たちも8月に入って観察されました。クロピンノ[写真：左]という小型のカニは岩にくっついてケガキというカキの仲間の貝に寄生するカニで、おそらくケガキが台風ではがれてしまったために観察されました。また、アナゴのこどもと考えられるレプトケファルス(ウナギ目の幼魚)[写真：右]も観察されました。

真鶴の海況

7月は例年より高めの水温

横浜国立大学大学院 環境情報研究院附属臨海環境センターでは、過去20年以上にわたり毎月、真鶴町岩漁港沖の定点(水深120m地点)で海水温やプランクトンの量などの観測を行なっています。現在では、複数の大学や研究機関も加わって様々な調査も行っています。下はその定点の水深10mの水温を過去10年と今年を比較したグラフです。それによると今年は2月が例年よりも低く、7月は高い様子がわかります。<データ提供：横浜国立大学>



真鶴の漁獲情報

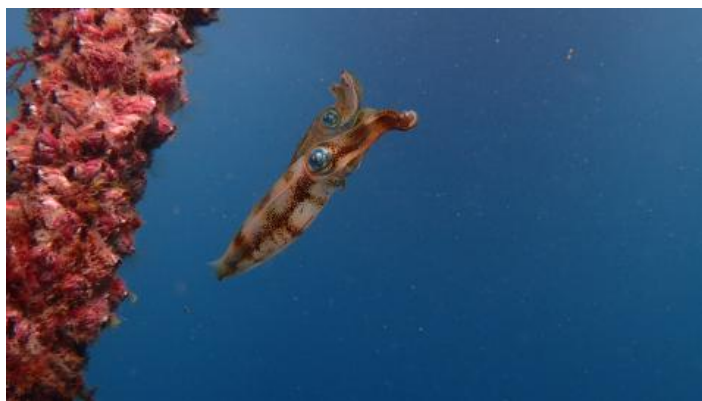
サバが好調！キンメダイもまだ水揚げ

7月末の台風以降続けざまにいくつか台風がきたせいで、真鶴町漁協の定置網は8月中旬まで水揚げがありませんでした。お盆過ぎからの操業では脂がのって美味しくなったサバの水揚げが好調で、10トンの水揚げのうち9.5トンがサバの日もあったとのこと。また、通常では初夏には獲れなくなるキンメダイもまだ水揚げがあったそうです。なお、真鶴では陸に近い水深100数十mの場所でキンメダイが獲れます。<情報提供：真鶴町漁協>

真鶴の海中の様子

ダイビングで夏の魚たちが多く見られる

夏に入り、岩地区沖のスキューバダイビングスポットでは、カンパチの群れやキレイなオレンジ色のキンギョハナダイの群れ、アオリイカのこども[写真]などが、関東一円から集まった多くのダイバーたちを楽しませてくれています。岩ダイビングセンターでは、SNSでの海況情報やホームページのブログなどで、海の様子を発信しています<情報・写真提供：岩ダイビングセンター>



アオリイカのこども

8-9月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 8月25日(土) 海のミュージアム(磯の生物観察会)
三ツ石海岸・貝類博物館【有料】
- 9月 9日(日) 海のミュージアム(磯の生物観察会)
三ツ石海岸・貝類博物館【有料】
- 23日(日) 生物展示コーナー
貝類博物館テラス【無料】
- 24日(月・祝) 海のミュージアム(磯の生物観察会)
三ツ石海岸・貝類博物館【有料】

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいでの掲示・配布歓迎です。